

支店別議案説明会質疑応答

9月9日から12日、管内8会場（各基幹支店と葛川支店）で支店別議案説明会を開きました。各会場では、組合員の皆さまから貴重なご意見・ご質問が多数出されましたので、その一部をご紹介します。



Q. 支店・施設の集約・統廃合が囁かれています。現状はどうなっているのか、常勤・役員の見解はどうなのか聞かせてほしい。

A. J Aの事業伸長は鈍化し、多くの施設も老朽化し多額の修繕費が見込まれ減損会計上、赤字部門があることから支店の統廃合および施設の集約は避けられない状況となっている。また、職員の採用人数よりも退職人数が多いことから人材不足による1職員にかかる業務負担が大きくなっていること等を考慮しても職場環境の整備が必要となっている。ただし、支店統廃合・集約に向けた組合員との話し合いの場を持って理解してもらうよう努力します。

Q. 以前は支店別議案説明会に役員が分担して出席していたが、今回から常勤役員と部長級の職員が全員出席している。情報を共有してもらえることから非常に良いことだと感じています。

A. 農協は組合員のためにある組織ですので、組合員の声を聴くことが最も大切なことであり、それを実現するために役職員が情報を共有していく必要があります。

Q. 総代の人数の変更はいつからになるのか。

A. 来年の総代選挙からになります。

Q. 今年は天候不順等の影響で野菜の価格が低迷している。JAで生活資金等の融資は考えているのか。

A. 今年の収穫終了後の時期に、購買品等の支払いに間に合うように資金対策を考えています。

Q. 組合員間で問題が発生した場合、相談・アドバイスを受け付ける部署は農協にはあるのか。意見要望等を文書で入れる意見箱などは設置していないのか。

A. 営農関係であれば、営農の窓口等生産団体を管理している窓口へ相談にいつてもらいたい。意見箱は各支店に設置してあるので利用してもらいたい。

Q. 第4次農業振興計画に関わる助成事業の内容で、事業計画総額が3千万円になった理由は。

で、「つがるロマン」を継続したいと考える生産者は一定数いると思いますので、個袋出荷を願っています。

Q. 常盤地区では、来年も「つがるロマン」を作ると聞いているが、売りがくって安い米を作っているのか。

A. 常盤地区の特別栽培米「つがるロマン」は、全量生協との結びつきがあるので、生協が取扱品種の変更をしない限りは続くものと考えます。

Q. 米の販売計画について、昨年収量が少なかったにもかかわらず前年対比で3.5%しか増えておらず、消極的ではないか。

A. 米の販売計画における前年対比は、単年度の集荷実績ではなく、その年度で販売となった米の取扱数量の対比です。年々、鈍化している米の販売進捗も考慮した計画となっています。

Q. 直売所をもっと活用して地域活性化につながるような仕組みを作っていただきたい。これから直売所をどのようにしていくのか。また、従来からの取り決めごとにとられず、もう少し裾野を広めることも必要ではないだろうか。

A. 助成事業は平成22年度から継続していますが、財務状況が厳しい状態となっています。助成内容を見直し、重点ポイントに助成をしていきたいと思います。今後要望を考慮しながら対応していきます。

Q. 営農ICTについて、どのようなビジョンを持っているのか。また、3年間でどのくらい実用化されるのか。

A. 今後は、ラインのテレグラムを使って写真や情報を直接やり取りできるようにします。また、来年の4月1日から東京農大のシステムにより地図情報を活用し生産履歴を簡易に作成できるように考えています。将来的には購買の注文もできるように検討しています。

Q. 労働力不足について、JAではどのような対応をしているのか。

A. 外国人による農作業請負について、来年申し込みを受け付けし、令和3年から開始予定です。JAが雇用し、年間労働時間の1/2以上は各生産者の農作業を行います。

Q. 労働力不足のため、葉取らずりんごに変えゴールド農園と契約出荷している事例もある。農協も葉取らずの方法も考える必要があるのではないのか。また、葉取らずは短期間に出来る栽培ではないので将来的に農協でも取入れる考えはないのか。

A. 青果委員を交えて栽培及び品質管理や市場動向について3回ほど検討している。当管内でも黒石・板柳で市場関係者と協議しているが、品質的にバラつきが多く、市場関係者からは「単に葉を取る作業を省いているだけのりんご」との声や着色等でお客様から敬遠されている傾向もある。価格についても、下位等級ともなれば1,500円から1,800円と、非常に安値で取引されている状況下です。葉とらずりんごを積極的に推し進めることが農家所得の増大に繋がるかは意見が分かれ、労働力軽減だけで、所得が低くなることも考えられるので売り先を決めながら検討して行きたい。

Q. りんごの推奨品種が5種類になったのは所得を上げるための方策なのか。また、この中にある奥州ロマンについて考え方を聞

きたい。スマートフレッシュの利

用効果はどの程度なのか。

A. 昨年11種類あった中から5種類に絞った。奥州ロマンは、10月中旬から下旬の収穫期であり、早生ふじに代わる品種として、スマートフレッシュ処理し3月上旬まで海外向けに期待されるりんごです。商社と協議しており、海外に向けた取り組みとしてこの品種を推奨したい。苗木の助成金も予定している。

Q. 10月から消費税が10%に引き上げられるが、「青天の霹靂」の概算金は増税分安くなるのか。

A. 消費税引き上げによって概算金が増えるわけはありません。

Q. 「つがるロマン」から「まつしぐら」へシフトすることになった経緯を説明いただきたい。

A. 「つがるロマン」より「まつしぐら」の需要が高いというのが当JAと大手米卸業者の認識です。当JAが農家所得の増大を掲げている以上、反収の増加により1割程度の収益増加が見込める「まつしぐら」の方が、市場評価も含め有利であることはご理解いただけると思います。その一方



A. 農協の直売所については、これまで女性部が中心となって運営してきた経緯があるが、高齢化等により支障が出てきている。当JA管内全ての直売所を包括的に捉え、関係する組合員組織と協議しながら、今後の直売所のあり方を検討してまいります。また、サンフェスタについては農協としても重要視しており、現在コンサルタントを入れて問題点を洗い出し検討しているのもう少し時間をいただきたい。